

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです  
人脈がある人、ない人 「また会いたい」と思われる人の共通点

「人脈」という言葉は、人によってとらえ方に違いがあるようです。最も勘違いしてはいけない点は、人脈は「双方向の流れ」で培われるものだということ。一方通行では人脈とはいえません。つまり、一度だけパーティーで話したことがあるとか、名刺交換しただけとか、「自分はその人を知っている」、でも相手のほうが覚えてくれているかどうかはわかりません、というのでは人脈ではないのです。しかし、人脈というと、この一方通行に認識を指すことが多く、有名な人や地位のある人を知っていると発言することによって、自分の立場を良くしようと意図する人は少なくありません。人脈と呼べる間柄にある二人は、「ギブ&テイク」の関係に立っていることが基本です。一方的に頼ったり、頼られたりするの、人脈ではないのです。たとえば、二人でお酒を酌み交わしながら、お互いに有益で豊富な話題について話し合い、また興味のある情報を提供し合えるようなら、それはとてもいい関係です。もし逆に、相手が話に乗ってこようとしないのなら、その人はあなたのことを「仕事上で有用な人ではない」、あるいは「それなりのレベルを持った人ではない」と見ているからかもしれません。

周りから認められるだけの実力や魅力が自分にどの程度あるのか、一度考えてみてください。仕事を辞めたとき、その現実直面する人は多いようです。「〇〇社の部長」「△△社の課長」といった肩書が消えたとき、突然、自分本来の実力や魅力がどの程度なのか、その現実を突きつけられます。付き合いのあった人からのお誘いがぱたりと途絶えたり、こちらから声をかけてもあれこれ理由をつけられて断られたりすることが頻繁になるからです。逆の立場に立って考えてみるとよくわかります。退職して半年経った元上司から食事のお誘いが来たとき、恩があるのはわかっている、たまたま何かの仕事が入っていたりすると、「仕事が忙しいから」という理由で断ることにそれほど良心の呵責を感じないのではないのでしょうか。相手を軽んじるとか、恩を忘れるとかいうことではなく、仕事から離れてしまった人と、現役で頑張り続けている人とは、優先されることや、メリットに思えることが違ってきます。これは仕方のないことです。

アリストテレスは、「人間とは社会的動物である」といいました。人は社会の中で自分に与えられた役割を果たしていきませんが、そうしながら各人のキャパシティをきちんと確認しているものです。対等に付き合える相手かどうかを無意識に見極めています。つまり、本来「人脈」とは、意図的につくるものではなく、自然とつくれるものです。相手に人脈として足る人物として認められるためには、人脈をつくるためにパーティーへ足繁く通ったり、ツテをたどって紹介を受けたりする以前に、自分を磨き、自分の立場をつくることから始めてみましょう。より高いレベルの人脈を求めるのなら、それ相応の人たちから求められるようなレベルまで自分を育てることです。ここから始めるのが、結局は一番の近道になるのです。

アリストテレスは、人間は、どんな動物と言っています？

( )